

2. 古墳時代・飛鳥時代と国際交流

第1ゾーンでは、古墳時代と飛鳥時代の日本と外国のつながりについて展示しています。当時、日本は中国や朝鮮半島の国ぐにとどんどん交流して、その制度や文化のよいところを学び、日本の国づくりに活かしました。今みんなが使っている文字、漢字もそのひとつです。大事なできごとをのちの時代まで伝えるために、刀や剣に文字を刻み込むこともあったのね。

また、馬を飼いならして人のために役立てたり、須恵器（すえき）と呼ばれる硬い土器を焼く技術が伝えられたり、このほか仏教も外国との交流のなかで日本にもたらされました。飛鳥時代に活躍した聖徳太子（しょうとくたいし）は、仏教を積極的にとり入れ、国づくりに活かしました。日本の国づくりには外国との交流が欠かせなかったことがよくわかりますね。